

1. 評価結果概要表

作成日 2008年1月17日

【評価実施概要】

事業所番号	3071600278
法人名	医療法人 明美会
事業所名	グループホームきびの里
所在地 (電話番号)	和歌山県有田郡有田川町小島2-3 (電話) 0737-52-3227

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山市手平2丁目1-2		
訪問調査日	平成19年12月19日	評価確定日	平成20年1月17日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤10人, 非常勤2人, 常勤換算6.3人	

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄筋造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 700円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名	
要介護1		4名	要介護2		7名	
要介護3		4名	要介護4		3名	
要介護5		0名	要支援2		0名	
年齢	平均	85.1歳	最低	72歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人明美会有田南病院 ・ きび訪問看護ステーション
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは病院併設型であり、利用者は健康管理や診療・リハビリテーションを身近に受けることができ、病状の悪化した場合は入院ができるなど家族に安心されている。また、家族への連絡帳の活用や、電話での報告、利用者の家庭を訪問し、直接近況を伝えるなど、家族との連携を密に行っている。職員は生き生きと業務に従事しており、利用者が絵を描いたり、歌ったり、また読書、短歌作り、計算シートなど多様な趣味を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の指摘事項の「ホームの運営理念の地域に対する啓発・広報」については、運営推進会議の開催を通じ行われている。「栄養バランスへの配慮」については、栄養士が作成する献立表を参考にし、また、体重管理を行い病気の予防に努めている。その他の改善課題についても、段階的な改善に努力している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員全員で評価を行い、管理者がそれをまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの概要や行事についての説明や、家族会の開催、利用者のヒヤリハット事例等について意見を出してもらっている。また、構成員の助言を受け、脳活性化トレーニング等を実施する等サービスの向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等から苦情があれば、カンファレンス等で話し合いを行っている。また、職員の教訓とする等、今後の運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>隣近所と少し離れており、ホームが地域の一員として、地域活動に参加する取り組みは行われていない。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりを尊敬し、また意思を尊重して、安心した自立した生活を送れるようなケアを目指し、地域の人々との協力を通じて、認知症高齢者を支える地域づくりを目指すという趣旨の事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に、月一度のカンファレンスやミーティングの時、理念の趣旨に沿って日々の取り組みを実行するよう指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所と少し離れており、ホームが地域の一員として、地域活動に参加する取り組みは行われていない。	○	運営推進会議の構成員に、区長、民生委員等地域の代表も入っているのので、構成員を通じて地域の人々との交流のきっかけとされるよう期待する。また、ボランティア等に来てもらうように働きかけ、外部とのつながりの輪を広げられるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員が評価したものを管理者がとりまとめた。前回の外部評価で指摘された要改善点については、具体的に取り組む、改善するよう努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの概要説明や行事の実施状況を報告し、家族会の開催や利用者のヒヤリハット事例等についても意見を出してもらっている。また、構成員の助言を受け、脳活性化トレーニングを実施する等サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者とは、ホームの情報提供票を提出したり夜勤体制など運営上疑問があれば相談し、連絡を密にするよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族との連絡帳に記載し、診療に行ったことや、普段と変化が見られること、ヒヤリハット事例等の現況を家族に報告している。また利用者の家庭を訪問し、近況を報告している。預かり金の管理を行っている利用者の家族には、定期的に収支明細書を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等から苦情があれば、カンファレンス等で話し合いを行っている。また、職員の教訓とする等、今後の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は多くないが、異動があったときは、3週間の研修期間を設け、入居者とコミュニケーションをとり早く馴染めるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行われる研究発表会や県グループホーム連絡会の研修等にはできる限り参加し、研修結果は朝礼で発表し伝達される。また認知症の実践者研修には毎年参加している。新しく入った職員には3週間の実習期間を設け業務を習得出来るようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会に参加し、グループホーム間の交流や相互実習を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを利用する場合は、見学してもらい、職員や他の利用者の生活の状況などを見てもらっている。また、本人や家族と面談を行い、徐々に馴染めるようにしている。利用当初は外出や外泊、家族と電話で会話する等、徐々に馴染むようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とともに過ごす場を作り、常に利用者の輪のなかに入っている。利用者と一緒に歌や趣味等を共に楽しんでいる。また利用者から感謝する気持ちや、家事を学んだりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は家族の訪問時や家庭を訪問した時に、利用者の希望、意向を把握するように努めているが、十分な把握ができていない。	○	センター方式を活用する等、更に希望や意向の把握に努めるよう希望する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスのときに利用者の状況を話し合い意見を出したり、申し送りに利用者の状況を記載し、それらを活用して介護計画を作成しているが、介護計画の様式が十分でなく、本人・家族の同意も得ていない。	○	介護計画の様式の充実を図り、また、利用者家族の同意を得るよう希望する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度介護計画を見直ししており、心身等に変化が生じたときはその都度見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	きび訪問看護ステーションと医療連携体制の契約を結んでおり、看護師と24時間連絡が可能で、原則週1回バイタルチェックや体調・食欲・排便等の健康管理を受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医として法人病院の医師が、2週間に一度往診しバイタルチェックや体調、血液検査、服薬指導等を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、重度化した場合や終末期のあり方について説明している。病院が併設しており終末期の対応が可能なので家族も安心している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを傷つける言動がないよう心がけている。また個人情報については保管場所も決めており、取り扱いには注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、できるだけ希望に沿った生活ができるよう支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒にメニューを考え、嗜好を考慮して食事を作るよう工夫しており、誕生会にはその人の好みの料理を作っている。また利用者の能力に応じ、食膳の準備や後片付けを手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は各日の午後2時頃から4時頃までの間に行っている。入浴するかは、できるだけ利用者の希望にそえるよう、またゆっくり時間をとって楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗い、食器拭き、洗濯物たたみなどの役割や、絵を描いたり、歌を歌ったり、読書、短歌作り、計算シートなどの楽しみごとなど、利用者の得意な場面づくりを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日向ぼっこをしたり、散歩したりしているが、周辺土地の事情や利用者の身体機能の低下もあり、日常的な外出は一部の利用者に限られている。	○	建物の立地事情も考えられるが、今後日常的な外出支援を期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中(午前8時～午後6時頃)は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年7月新建物に入居してからまだ避難訓練を行っていない(来年1月に実施予定)。また地域の人々に協力の働きかけもなされていない。	○	所轄消防署に協力を依頼して、避難・誘導訓練を実施されるよう希望する。なお、地域の人々の協力についても、働きかけを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに考慮し、法人(病院)の栄養士が作成する献立表を参考にして食事を作っている。また、食事以外の水分補給も行い水分の摂取に注意している。なお、利用者の体重をによる管理も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同室は、壁に行事の写真を貼ったり折り紙を置いたりしている。室内の音や光の強さも適当と感じた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を置いたり、絵を飾ったり、鉢植えの花を置いて居心地よく過ごせるようにしている。		